

2019年11月7日

(報道発表資料)

東京大学 連携研究機構 バーチャルリアリティ教育研究センター

東京大学 サービス VR 寄付研究部門を設置

◆東京大学 連携研究機構 バーチャルリアリティ教育研究センターは、本年 10 月 1 日付で「サービス VR 寄付研究部門」を設置し、約 3 年間の計画で活動を開始しました。

◆本寄付研究部門では、サービス産業において必要とされる VR/AR 技術を活用したシステムに関して、対人サービスと空間サービスの観点から研究を行うことを目的としています。学術的には、新しい VR 研究のジャンルを確立させるとともに、VR/AR 技術を活用することで、今後我が国において重要性を増していくサービス産業の競争力向上に貢献することが期待されています。

東京大学 連携研究機構 バーチャルリアリティ教育研究センター（センター長 廣瀬通孝、以下、VR センター）は、株式会社セブン&アイ・ホールディングス（代表取締役社長 井阪 隆一）、東日本旅客鉄道株式会社（代表取締役社長 深澤 祐二）、近畿日本鉄道株式会社（代表取締役社長 都司 尚）、大日本印刷株式会社（代表取締役社長 北島 義斉）、株式会社ソリッドレイ研究所（代表取締役社長 神部 勝之）からの寄付を元に、VR センター内に「サービス VR 寄付研究部門」（以下、本研究部門）を設立しました。2019 年 10 月 1 日から 3 年間の計画で設置しました。

これまでバーチャルリアリティ(VR)や拡張現実感(AR)の研究開発は、主としてものづくりの分野への応用が中心になって進められてきました。現在、産業のサービス化やソフト化が産業において大きなテーマとなりつつあります。今後、VR や AR の技術をこうしたサービス業に対して活用しようという社会的要請はますます増加することになるでしょう。

本研究部門の目的は、サービス産業において必要とされる VR/AR 技術を活用したシステムの開発を想定し、対人サービスと空間サービスの観点から研究を行うことです。対人サービスに関しては、VR 顧客アバタを含む接客サービス VR トレーナーの研究開発と、動機

づけまでを含む新しい訓練方式の研究を行います。空間サービスに関しては、サービス空間における顧客の行動誘発のための基礎的な方式研究と AR 技術を用いた空間の高付加価値化に向けた研究開発を行います。

今回のご寄付により実現した「サービス VR 寄付研究部門」の活動により、学術的には「サービス VR」という新しい VR 研究のジャンルを確立させることができ、さらなる技術発展につなげることができると考えています。社会的には、冒頭に述べたように、今後の我が国において重要性を増していくサービス産業の競争力向上に貢献することが期待されます。

■サービス VR 寄付研究部門

設置先：

東京大学 連携研究機構 バーチャルリアリティ教育研究センター

寄付者：

株式会社セブン&アイ・ホールディングス

東日本旅客鉄道株式会社

近畿日本鉄道株式会社

大日本印刷株式会社

株式会社ソリッドレイ研究所

設置期間： 2019 年 10 月 1 日～ 3 年間

担当教員：

特任教授（兼務）／東京大学大学院情報理工学系研究科 教授 廣瀬 通孝（ひろせ・みちたか）

■東京大学 連携研究機構 バーチャルリアリティ教育研究センター(略：VR センター)について

東京大学は、2018 年 2 月 1 日付で、全学組織として情報理工学系研究科（研究科長：石川正俊）が責任部局となり、人文社会系研究科、工学系研究科、医学系研究科、新領域創成科学研究科、情報学環、先端科学技術研究センターの連携を得て、「連携研究機構」として設置し、活動を開始しております。

バーチャルリアリティ教育研究センター、略してVRセンターは、VR研究における国際的なイニシアティブを確立するとともに、先端技術の普及と、VRを活用した先進的教育システムの導入を推進することを目的として活動を開始しています。

参考 URL : <https://vr.u-tokyo.ac.jp/>